

この週刊商品レポートは、2000 年から書いているから、もう足掛け 12 年もやっている事になる。当方が商品業界入りしたのは昭和 59 年の 4 月だから、1984 年という事になる。今年は 2012 年だから、28 年前の事だ。

バブル景気が始まったのは 1987 年であり、バブル崩壊は 1990 年。3 月に大蔵省から総量規制が出されたのが引き金となり、株も不動産も大暴落。その後の失われた 20 年の間も、ずっと商品相場をやり続けてきたわけだ。

昨年、70 数年ぶりかにコメ先物市場がスタートしたわけだが、今度は何とそのコメを上場した東京穀物商品取引所が解散を決定。コメは大阪に、コーンや大豆などその他の商品は東京工業品取引所に吸収される事が決まっている。東京工業品取引所は、おそらく東京商品取引所とでも名称が変わるのだろう。

その東京商品取引所だって、最期は東京証券取引所もしくは金融商品取引所と合併するかもしれないし、ボードメンバーも時代と共に移り変わって行くのだろう。当方が業界に入った頃は取引会社が 100 社ほどあり、取引所だって全国 19 箇所あったわけで、もうここに至っては感慨も何も無いが。

商品相場の暴騰、暴落なんて言うのは、大概 1 年に一度くらいはある話なので、そういう意味では少なくとも 28 回は見てきている。中には価格が 10 倍になったり、10 分の 1 になったりというのもあったわけで、証拠金ベースでは概ね総代金の 3% くらいに設定されている商品先物では、レバレッジが掛かって投機資金が 100 倍になったり、大足が出たりというのも当たり前に見ており、大概の事にはもう驚かぬ。

驚かぬが、今の相場は本当に足が速い。証拠金分程度なら、一晩で動くのが当たり前だ。

さてこのレポートは「相場予測レポート」であり、テクニカル分析とファンダメンタルズ分析を組み合わせて書いているわけだ。

テクニカル分析で使っているのは、チャートのトレンドフォローシステムであり、時にはリバーサルパターンや、相対力指数を使ったオシレーター分析、タイムサイクル、ファンด์ポジションの内部要因分析などを、組み合わせて予測している。

ただし、今の相場は本当に足が速く、証拠金分程度なら一晩で動くわけだから、実のところ一番重要なのはマネー・マネジメントである。

- 預り証拠金の幾らまで張るのが適正なのか？
 - リスクと期待収益の設定はどうするのか？
 - ロスカットラインは幾らに設定するのが妥当なのか？
- などなどの事である。

だがこのマネー・マネジメントという奴は、顧客に話しても喜ばれない。喜ばれないどころか嫌われる、拳句はカネにもならない…というものなのだ。だから価格予想のレポートはあっても、マネー・マネジメントのレポートというものは、まず世の中に無い。

バフェットの言葉で、アナリストレポートなんぞポジショントークで信用できるものじゃない

という意味で、「床屋に行って、髪を切ったほうがいいかな？と聞く事と一緒に」というものがある。だが床屋側から言わせれば、「まだ切る必要がないよ」とか、「あなたにその髪型は似合いませんよ」とか言うのは、嫌われる上に、カネにならないという話である。

一般的に先物取引においては、一つのマーケットに対するリスク金額は5%に抑えろ！とされている。100万円で5万円、1000万円で50万円であり、つまり預り資金100万円ならば、今のゴールドなら初めから1枚のポジションも取れないわけだ。身も蓋も無い話になる。

ましてや営業マンなんぞは、当たり前だが半分は詐欺師だと思われているわけだ。手数料を落としてナンボの商売なのだから、バフェットの言うとおりで、ある意味ではそうかもしれない。

その詐欺師に、「私は資産総額〇〇円あるので、先物取引で何枚の玉を張れますか？」と聞くわけにもいくまい。また実際に自分の総資産を言う人も居ないし、となれば逆に営業マン側でも顧客の適正なポジションは計れないわけだ。よって個人投資家には、マネー・マネジメントは一切行われぬ事となる。

また、そういうマネー・マネジメント教育といのは、銀行だろうが、証券会社だろうが、もちろん商品会社でも行なっていないはず。相場も知らない窓口のお姐さんが、ちょっとリスクの説明をするだけだ。だから聞かれても、説明できる人も少ないはずだ。せいぜい、歩合外務員が「張るのは3分のくらいにしておきましょうよ」と言うのが関の山だ。それは足が出たら困るからだ。

「そういうのはいいのだ。どこでロスカットすれば良いかだけ教えろ」というのは、上がるか、下がるかの価格予想でしかない。損切りした後に急騰したら、怒りを買うだけである。おそらく先週の金曜日に、150円安をしたゴールドの買い玉を損切りさせた営業マンは、その後の外電で急騰しているのを見て、怒り心頭の顧客への対応で頭を抱えている事だろう。

ストップロスオーダーというのは、ある意味では芸術の領域であり、ポジションに近過ぎれば相場のぶれで簡単にヒットして儲からないし、遠過ぎれば損失が大きく膨らむため、どこに設定するかは銘柄、時期によって変わってくる。

優れたトレーダーと言われる人でも、全トレードの勝率は40%とされているわけで、つまりは100回トレードすれば60回は損切りなわけだ。つまり損は小さく、儲けは大きくしないと絶対に儲からないのが相場なのであり、一般的にリスクの3倍の期待収益が必要とされている。

つまり金のロスカットを100円に設定するなら、少なくとも300円幅の期待収益を考えて仕掛ける事が必要だ。というか、相場分析で300円狙えると思うから買う。でも100円逆に行ったら損切りする…という話で、後先の話ではしょうがないわけだが…。

だから小すくいで50円狙いならば、20円も逆に行ったら切らなきゃしょうがない。もっとも当方のように対面取引だと、その取引では手数料負けになるので、そういう仕掛けは初めから狙わない。

今回、こういう事を書いたのは、大事な会員さんから「ロスカットは幾らに設定したら良いですか？」という質問が来たからだが、ちょっと答えになったのかどうか自信がない。

相場の当たり外れも難しいし、チャートの見方も同じものを見ても才能がモノを言いそうだし、ストップロスオーダーも芸術の領域だ。幾らに設定するかは保有金額と期待収益次第なので、ホント答えにならなくて申し訳ありません。

〔貴金属〕

今週の金の値動き

	6月限(当限)	前日比	4月限(先限)	前日比
6月4日	¥4,085	155	¥4,087	153
6月5日	¥4,077	-8	¥4,092	-5
6月6日	¥4,120	43	¥4,125	43
6月7日	¥4,145	25	¥4,152	27
6月8日	¥3,992	-153	¥3,997	-155

金相場は、先週号においては『換金売りで大きく下げた相場が、週末一発の急騰でNY金のチャートは変化。実際にQE3が行われる可能性があるかどうかに注目であり、更に期待が高まる様なら底入れ完了。失望するようなら、再度の安値を更新となるだろう。来週はその分かれ道だろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けはNY高の影響で大暴騰であり、その後もユーロの反騰などで堅調に推移。しかし買い気が高まった後、バーナンキFRB議長が議会証言でQE3実行を明言せず、一転して週末は暴落。非常に激しい相場展開となった。

○東京金日足

…削除済み…

年初来の高値 4,654円(2/27) → 3,886円(6/4) まで768円下げた相場は、その6/4中に急騰して(実際は先週末の夜間取引でだが) 4,183円(6/7) まで297円幅戻した(3分の1戻し)。

しかし週末に一転して急落した相場は、前日比155円安で終わったわけである。道中、120円ほどの下げの時点で、900枚超の売りが一気に出て(ファンドの投げか?) CBの150円安を記録するなど、非常に荒い相場である。

荒い動きはその後も続いており、週末のNY市場では下げ過ぎの反動で反発。国内夜間取引では80円高となっており、週末の下げの半分は戻しているわけだ。

前日売られた原因のバーナンキの発言に関しては、今度は「追加金融緩和を否定したわけではない」と受け取られるなど、まさに後付けの理由であり、何でも有りの状況だ。

欧州経済不安も、スペイン格下げで暴落→スペイン支援要請で反発など、まさに乱高下のための材料探しでしかなく、ある者はリスク回避で下落すると言い、ある者はリスク許容度が回復すると言い、どうぞ皆さんご勝手に…という状況だ。

ともかく世界景気の先行きは不透明だが、ダメであろうがよかろうが、ゴールドがラストリゾートとして人気を集めるのならば、いずれ5,000円になるのだろう。いずれそういう時も来ると思う。

しかし信用不安が信用収縮につながり、ゴールドの換金売りが出るならば、3,000円まで下がるのだろう。インドではルビー安で、相対的に高くなってしまった金が全く売れていないと言うし。

だが目先は、この週に付けた3,886円の安値を抜くのか?それとも4,183円の高値を抜けるのか?であり、その300円幅の中で乱高下するというのが妥当な考え方かもしれない。こんな時は逆張りが有効か。

また珍しい事だが、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年6月	¥3,909	6月28日	¥4,754	9月7日	¥3,810	12月30日	¥3,992
2012年8月	¥4,506	8月29日	¥4,754	9月7日	¥3,808	12月30日	¥3,995
2012年10月	¥4,229	10月27日	¥4,652	2月27日	¥3,808	12月30日	¥3,995
2012年12月	¥4,037	12月26日	¥4,654	2月27日	¥3,808	12月30日	¥3,996
2013年2月	¥4,654	2月27日	¥4,654	2月27日	¥3,885	6月4日	¥3,998
2013年4月	¥4,307	4月25日	¥4,342	4月27日	¥3,886	6月4日	¥3,997

○NY金日足 (6/7現在)

…削除済み…

週末6/8のNY市場は、前日比3.4ドル高の1591.4ドルでの終了。週末の国内相場が開いていた時点から見れば20ドル以上高いため、換算では73円高である。しかしそれも、すでに国内夜間取引で織り込み済みだ。

NY金は1530ドル割れで底打ちの後、6/6には1640ドル台まで戻していたわけだが、例のバーナンキ発言で6/7に1580ドル台まで暴落し、週末は戻したが1600ドルには届かずである。

この日の高値は1596.3ドル、安値は1556.4ドルと上下40ドルの動き。1600ドル台に乗るのなら強いのだろうが、逆に1530ドルを割れたらそこから暴落するだろう。

CFTC発表の6/5現在のファンドのポジションは、…中略…

6/8現在のETF残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、目先は3,900円～4,200円での逆張りか。いずれはどちらかに抜けるのだろうが、それはギリシャ再選挙明けだろうと読む。

今週のプラチナの値動き

	6月限(当限)	前日比	4月限(先限)	前日比
6月4日	¥3,591	63	¥3,621	77
6月5日	¥3,628	37	¥3,657	36
6月6日	¥3,668	40	¥3,690	33
6月7日	¥3,734	66	¥3,757	67
6月8日	¥3,617	-117	¥3,637	-120

プラチナ相場は、先週号においては『週末の夜間取引では金への連れ高で急反騰したが、それでもまだ買いトレンドへの転換はまだ。株価下落からのQE3期待はプラチナ相場には諸刃の剣で

あり、プラチナを買うなら金の方がマシという展開は続くだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けから上がった相場が金との出遅れを解消するように戻し、**3,800円に接近**。しかし週末は急落し、**再び3,600円台前半まで下落**である。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

4,589円(3/14)→3,499円(6/4)までの下げ幅は1,090円となり、ついに**3,500円割れ**も示現。しかし金の戻りの後追いで、**3,800円に接近**するまで**400円弱戻**したが、週末にまた反落である。

ただし週末の夜間取引では、…中略…

先週号では『**チャートでは3,700円、3,800円に上値抵抗がある格好**なので、少なくともその辺まで戻ってくれないと売り方としても仕掛けづらいだろう。案外とこの戻りを喜んでいるのは、**買い方ではなく売り方かもしれん**』とコメントしたわけだが、ちょうど良い感じで戻し、週末下げるなど理想的な展開になってきた。

ズバリ結論から先にいえば、今はまだ最大上がって4,000円が限界、下げた場合には3,499円が底ではなく、昨年12月安値の3,376円を割り込む下げがあるだろうと見ている。高いところを売ったほうが、まだ取りやすいだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年6月	¥4,445	6月28日	¥4,770	8月23日	¥3,370	12月30日	¥3,617
2012年8月	¥4,581	8月29日	¥4,726	9月7日	¥3,380	12月30日	¥3,630
2012年10月	¥3,918	10月27日	¥4,570	3月14日	¥3,375	12月30日	¥3,638
2012年12月	¥3,605	12月26日	¥4,582	3月14日	¥3,376	12月30日	¥3,641
2013年2月	¥4,535	2月27日	¥4,589	3月14日	¥3,499	6月4日	¥3,637
2013年4月	¥4,090	4月25日	¥4,141	4月27日	¥3,499	6月4日	¥3,637

○白金－金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、**3,637円(プラチナ)－3,997円(金)＝－360円**。今週も逆ザヤの拡大が進行した。

－547円(12/5)→95円(3/16)まで拡大したサヤが、**－466円(6/4)**まで縮小してまた拡大中だが、まだトレンドは下向きのまま。金売り・プラチナ買いの仕掛けは、まだ早いだろう。

ただし、いずれプーチンが何かを仕掛けると考えており、どこかで仕掛けたいとは思っている。

結論として当方の相場観は、短期的な戻りはあるだろうが、今はまだ3,800円が限界であろう

し、抜けても4,000円がせいぜいだろう。大底はまだ打っていない可能性が高く、押し目買いよりは戻り売りに分があるだろう。

〔穀物〕

今週のコーンの値動き

	7月限(当限)	前日比	5月限(先限)	前日比
6月4日	¥22,760	-390	¥21,490	-80
6月5日	¥23,180	420	¥21,750	260
6月6日	¥23,380	200	¥21,680	-70
6月7日	¥23,930	550	¥22,040	360
6月8日	¥24,150	220	¥22,070	30

まずはコーンから…

先週号においては『いずれは2万円を割り込む相場だと見ている。この夏場は戻り売り一貫で、秋のハーベストプレッシャーを待ちたい』とコメントした。

今週の相場展開は、21,040円(6/4)まで下がったものの、その後は反騰。週末には一時、22,400円の高値まで記録した。

○ 東京コーン日足

…削除済み…

25,180円(3/19)→21,040円(6/4)まで4,140円下落の後、1,360円の戻りが入ったわけだ。つまりは3分の1戻しという事だ。

次週、12日には米農務省報告がある。ここで思わぬ在庫減少などの材料が出れば、5月に記録した23,000円台までの半値戻しをする可能性も残るものの、あつてそこまでだろう。中期的な売りトレンドは変わらないと思われるし、収穫が始まる頃にはシカゴで4ドル台、東京は2万円割れも十分に有り得るとの判断だ。

ともかく作付面積は75年ぶりの高水準であり、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年7月	¥28,180	6月16日	¥28,560	8月30日	¥22,110	12月15日	¥24,150
2012年9月	¥27,440	8月16日	¥28,550	9月13日	¥21,930	11月28日	¥25,200
2012年11月	¥24,400	10月17日	¥25,060	3月19日	¥21,060	6月4日	¥22,090
2013年1月	¥21,790	12月16日	¥24,890	3月19日	¥20,520	6月4日	¥21,530
2013年3月	¥23,290	2月16日	¥25,180	3月19日	¥20,820	6月4日	¥21,870
2013年5月	¥23,250	4月16日	¥23,530	4月20日	¥21,040	6月4日	¥22,070

○シカゴコーン日足 (6/7 現在)

…削除済み…

週末 6/8 のシカゴ市場は、前日比 4 セント高の 598 セント。期近は一時 6 ドル台に乗せたが、これで安値から 50 セントほど戻したことになる。国内換算では、15 時半比で 360 円高であり、夜間取引の安値からはだいぶ戻した格好だ。

これは金高&株高などの外部要因によるところが大きかったわけで、もちろん農務省発表前の買い戻しも出たわけであろう。

CFTC 発表の 6/5 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、来週は米農務省報告があるが、それで強材料が出て上がったとしてもあと 1,000 円だろう。戻れば絶好の売り場と考え、いずれはシカゴで 5 ドルを割る展開になってゆくと見ている。

今週の大豆の値動き

	6 月限(当限)	前日比	4 月限(先限)	前日比
6 月 4 日	¥43,050	-550	¥42,670	50
6 月 5 日	¥43,700	650	¥43,360	690
6 月 6 日	¥45,000	1300	¥43,720	360
6 月 7 日	¥47,000	2000	¥44,610	890
6 月 8 日	¥50,000	3000	¥44,690	80

続いて一般大豆です…

先週号においては『内外ともチャートはどんどん悪化している。そんな中でファンドの買いはまだ高水準であり、いずれ投げてくるとの判断である。戻り売り一貫の相場であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、41,750 円 (6/4) まで下落の後に反騰。大きく戻って週末には一時 45,400 円の高値まで記録である。

○ 東京大豆日足

…削除済み…

コーンと違って在庫が少ないなど強材料がある大豆相場は、5/15 の安値を切ったところから反発に転じ、5 月の戻り高値を更新する 45,000 円台を記録である。

結局、46,680 円 (4/9) →41,750 円 (6/4) まで 4,930 円下げた相場は、45,400 円まで 3,650 円戻したわけである。

また当きりは今週一気に急騰したため、大幅に逆ザヤを拡大させる 5 万円ジャストと一代高値の更新である。

『所詮は天井を打っている相場だ』、『シカゴのファンドが総投げするだろう』との予測で組み立てきた相場だが、これではちょっと怪しくなってきたと考えざるを得ない。

収穫期になれば、最期はコーンともども暴落すると考えてはいるが、12 日の米農務省報告で

一段高に舞い上がるのは怖いので、一時的には撤退もしくは両建ても一考だろう。目先買われるとすれば、在庫の減少とホット&ドライの天候予測が出ることだ。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年6月	¥49,820	6月16日	¥50,000	6月8日	¥33,600	12月16日	¥50,000
2012年8月	¥47,450	8月16日	¥50,110	9月5日	¥35,610	12月15日	¥46,190
2012年10月	¥44,250	10月17日	¥45,340	4月9日	¥36,410	12月15日	¥47,600
2012年12月	¥37,500	12月16日	¥45,750	4月9日	¥36,830	12月16日	¥45,400
2013年2月	¥41,900	2月16日	¥46,680	4月9日	¥41,050	2月16日	¥44,260
2013年4月	¥45,350	4月16日	¥45,420	4月16日	¥41,750	6月4日	¥44,690

○シカゴ大豆日足 (6/7 現在)

…削除済み…

週末 6/8 のシカゴ市場は、7月限で前日比 1.75 セント安の 1426.25 セント。夜間取引からは大きく上がっているのですが、15時半比の国内換算では 560 円高である。もっとも新穀はもっと下げているので、東京が換算通りに上がることはなかろうが。

チャートでは 1509 セント (4/27) →1317.50 セント (6/1) まで 191.50 セント下げた後、110 セントほど戻している格好だ。今のところまだ 15 ドルは天井だと見ているものの、逆に 13 ドルも目先の底打ちなのだろう。

CFTC 発表の 6/5 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、46,000 円台で天井を打っている相場だとまだ考えているものの、期近の 5 万円乗せ、米農務省報告前の状況を考えると、相場は目先の底打ちから上げたがっているようにも思える。一時撤退、もしくは両建てで凌ぐのがベターだろう。

[コメ]

今週のコメの値動き

	6月限(当限)	前日比	11月限(先限)	前日比
6月4日	¥16,800	-200	¥15,110	-90
6月5日	¥16,850	50	¥15,140	30
6月6日	¥16,700	-150	¥15,100	-40
6月7日	¥16,880	180	¥15,120	20
6月8日	¥16,800	-80	¥15,350	230

○東京コメ日足

…削除済み…

完全な横ばい相場であるが、今週は現状での現物状況をざっと書いておこう。

○標準品の関東産コシヒカリは、高値から2,000円ほど下げたものの、安値はまだ拾われる状況にある。

○低温保管品は引き合いがあり、常温保管品は敬遠されている。

○北海道米、西のコメが人気であり、当然のごとく福島県産米が安い状況である。

○今週の収穫は不明だが、福島のコメは放射能の全量検査があるので出荷は遅れるだろう。

○万が一、福島以外の近隣県で汚染米が出た場合は、現物市場は急騰するだろうと見られている。

○実需は低迷しているが、集荷業者の手元にも現物は無く、品薄である。

東京コメ一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年6月	¥14,170	12月21日	¥17,900	5月15日	¥13,480	1月11日	¥16,800
2012年7月	¥14,240	1月23日	¥17,700	5月16日	¥13,820	1月26日	¥16,620
2012年8月	¥14,200	2月21日	¥16,940	5月16日	¥14,090	4月2日	¥16,200
2012年9月	¥14,200	3月21日	¥16,690	5月14日	¥13,990	4月2日	¥15,260
2012年10月	¥15,210	4月23日	¥16,710	5月15日	¥15,100	6月7日	¥15,380
2012年11月	¥15,500	5月21日	¥15,890	5月23日	¥15,000	5月24日	¥15,350

[ゴム]

今週のゴムの値動き

	6月限(当限)	前日比	11月限(先限)	前日比
6月4日	245.9	-14.1	242.5	-12.5
6月5日	247.9	2.0	243.8	1.0
6月6日	246.5	-1.4	241.9	-2.8
6月7日	256.0	9.5	243.4	2.4
6月8日	247.5	-8.5	237.6	-5.8

先週号においては『外部環境が悪化している中で、頼みの綱のタイの市場介入は口先だけで具体性がまだ無い。このような状況では、まだ底を打ったとは到底言えないので、戻り売りを継続するしかあるまい』とコメントした。

今週の相場展開は、続落した相場が233.8円(6/6)まで下落。またも新安値更新であり、10円も戻るとまたすぐ叩かれる展開である。

○東京ゴム日足

…削除済み…

今年の最高値である344.4円(2/27)→233.8円(6/6)までの下げ幅は110.6円であり、価格自体が3分の2になった状況である。

高い時には500円台、安い時には100円もしないゴムだけに、このままでは200円割れに突き進むのでは？という声が大きくなってきている。

タイ政府の市場介入の動きはまだ全く効果が上がらず、2012年の世界ゴム生産は前年対比で1.5%の上昇予測が出る始末。欧州債務危機からの需要の低下、中国の景気後退懸念、原油価格の下落傾向など、多少の介入でファンダメンタルズは変えようも無いだろう…という情勢が、相場下落に繋がっているわけだ。

タイの輸出業者は5月に300トン弱の現物を東工取で受け、今月以降更に受けを増やすと言っているが、それでどこまで買いあげられるのか…というところだ。国内在庫は1万5000トンあるわけで、せめて2割の3000トンは買わないとダメなんじゃないの？

先週号でも…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年6月	279.6	12月22日	339.5	2月27日	240.6	6月6日	247.5
2012年7月	324.0	1月26日	342.0	2月27日	237.9	6月6日	242.6
2012年8月	340.7	2月24日	344.4	2月27日	239.1	6月6日	244.0
2012年9月	341.2	3月27日	341.9	3月27日	238.4	6月6日	242.5
2012年10月	307.2	4月24日	317.8	5月2日	237.1	6月6日	241.3
2012年11月	267.8	5月28日	274.0	5月30日	233.8	6月6日	237.6

当先のサヤは、6月限247.5円～11月限237.6円と9.9円の逆ザヤ。逆ザヤの進行は、タイが期近を受けるという観測があるから。それでも価格は、全限一代安値の更新中なわけであるが。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

戻るとすればこれなのだろうが、タイ政府の介入で日本→タイに出荷されるのだから、東京が安いのが当然なのかも…。

産地の集荷量は、一日当たり20トン～1100トンと大幅激減。だが何かあったというニュースは無い。

国内営業倉庫在庫は、5/20現在で395トン減の14,803トン。2旬ぶりの減少である。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、22,000元台割れ寸前まで下落中。東京市場同様に、下げている状況だ。

相場はかなり悪質なようだ。とにかくタイの介入だけでは材料にならないわけで、世界経済の状況が好転しないと、どこかに在庫が移るだけで効果なしだろう。

結論として当方の相場観は、戻り売り継続の展開に変化ないだろう。頼みの綱はFOMCでQE3の初動があり、商品全体が上げ相場に入る事しかないだろう。だがその可能性は薄い。

〔原油・石油製品〕

今週の原油の値動き

	6月限(当限)	前日比	11月限(先限)	前日比
6月4日	¥47,020	-2270	¥45,500	-2450
6月5日	¥48,020	1000	¥46,790	1290
6月6日	¥48,000	-20	¥45,830	40
6月7日	¥49,000	1000	¥47,910	1080
6月8日	¥48,100	-900	¥46,840	-1070

まずは原油から…

先週号においては『奈落の底に向かってダイビングしている相場であり、現状ではどどこが底か想像も出来ない状況である。相場は相場に聞けで、チャートでの底入れ確認を待つしか方法がない相場であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、NY原油は81.21ドル(6/4)まで下落の後、87ドル台まで戻すがすぐに反落するなど、不安定な展開。

東京原油も、44,920円(6/5)まで下落し、45,000円台も割り込んだ。その後49,000円台まで4,000円ほど戻したが、そこからはまた急反落するなど、やはり不安定な展開。

○ NY原油日足(6/7現在)

…削除済み…

週末6/8のNY市場は、前日比0.72ドル安の84.10ドル。安値の82ドルからは大きく戻したため、国内換算では15時半比790円高。夜間取引で850円高しているの、すでに織り込み済みではある。

暴落前のGW中日の106.43ドル(5/1)→81.21ドル(6/4)でも、すでに25.22ドルの下落。これだけ下がれば戻りも出るわけだが、6ドルばかりは戻っても、まだ不安定な展開である。

今後、FOMCやギリシャ再選挙などのスケジュールをこなす中で、仮に乱高下しても81ドル台をキープするようなら底だろうが、抜けて80ドル割れともなれば、昨年10月の74ドル台を目指す可能性も十分ある。

ここ数年の中でも、高値140ドル台、安値30ドル台と動いた相場だ。買われた時は新興国需要だ、投機資金の流入だと言われ、暴落した時は信用不安だ、景気後退だと言われるわけだ。あまり採算というものを考えても意味がないのがこの原油相場で、一説にはオイルサンドや深海原油を含めて60ドル台と言われているが、現状の80ドル台では許容範囲なのかもしれない。

産油国が、安すぎるとキャーキャー騒ぐまでは、まだ戻り売りかもしれない。そう言えば100ドルを超えていた時点では、サウジが適正価格は90ドルくらいだ。今の原油は高すぎると発言していたが…。

なお週末のロンドンブレントは99ドル台、ドバイ原油は97ドル台である。NY原油の逆ザヤは、すでに恒久的なものになりつつある。

6/5現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

63,550 円 (3/15) →44,920 円 (6/5) までの下げ幅は、18,630 円に及んでいる。そこから週末の急落前までは戻したとはいえ、これだけ下げて数千円の戻りは焼け石に水。

先週号で『NY 原油がすでに昨年 12 月の安値 92 ドル台を大きく割り込んだのだから、これは東京市場の当時の安値 47,910 円を割り込んだのと同義であり、仮にそこまで下がるのならなお 3,000 円の下げ余地があるということだ』とコメントしたわけだが、NY 原油が 81 ドル台というのだから、更に下げての 45,000 円割れも当然。

そこから 3 日間戻して、底打ちのムードも多少は広がったのだが、週末の急落で元の木阿弥。相場格言には「3 手戻りは売り」というのもあるわけで、バーナンキの議会証言がきっかけで週末は下げたとはいえ、こうなるのも相場では自然の現象だ。

また週末の夜間取引では安値からは戻した故、普通ならこの辺で一度もみ合いに入る。底値固めをするか、底抜けするかは、来週末くらいからの動きで決まるだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012 年 6 月	¥51,590	1 月 4 日	¥64,020	3 月 15 日	¥46,500	6 月 5 日	¥48,100
2012 年 7 月	¥51,290	2 月 1 日	¥63,810	3 月 15 日	¥45,800	6 月 5 日	¥47,680
2012 年 8 月	¥59,290	3 月 1 日	¥63,550	3 月 15 日	¥45,610	6 月 5 日	¥47,390
2012 年 9 月	¥60,800	4 月 2 日	¥61,900	4 月 4 日	¥45,280	6 月 5 日	¥47,180
2012 年 10 月	¥57,430	5 月 1 日	¥57,710	5 月 2 日	¥45,060	6 月 5 日	¥46,970
2012 年 11 月	¥47,650	5 月 1 日	¥49,040	5 月 8 日	¥44,920	6 月 5 日	¥46,840

結論として当方の相場観は、目先は 4000 円幅での逆張り・もみ合いに入るかも。その後、上に抜けるか、下に抜けるかは、今後の世界情勢と金融政策次第であろう。どっちかと言えば、下に抜ける可能性の方が若干高いように感じるが…。

今週のガソリンの値動き

	7 月限(当限)	前日比	12 月限(先限)	前日比
6 月 4 日	¥60,980	-2470	¥55,110	-2460
6 月 5 日	¥62,520	1540	¥56,780	1670
6 月 6 日	¥62,430	-90	¥56,980	200
6 月 7 日	¥63,770	1340	¥58,270	1290
6 月 8 日	¥62,850	-920	¥57,080	-1190

続いてガソリンです…先週号においては『奈落の底へと下落中の展開であり、今は底値が見えない状況。自立反発はあるかもしれないが、買い材料が出ない限りは、まだまだ買える相場ではないだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、54,510 円 (6/5) まで新安値更新の後、自律反発で急騰。週末には 59,920

円まで安値から 5,000 円以上の反騰となったものの、そこからはまた下落して陰線引け。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

77,810 円 (3/15) →54,510 円 (6/5) までの下げ幅は 23,300 円にも及び、下げ率は 30%となったが、さすがにこれだけ下げた相場なので、59,920 円 (6/8) まで一気に 5,410 円戻した。下げ幅の 23%の戻りである。

だがまたすぐに 3,000 円近く売られて終了では、不安定な展開が続くのだろうと考えざるを得ない。54,000 円は底かもしれないが、6 万円も戻り天井であり、その間で激しく動くケースが一番可能性が高いのではあるまいか。

一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012 年 7 月	¥61,750	12 月 26 日	¥79,810	3 月 15 日	¥60,500	6 月 5 日	¥62,850
2012 年 8 月	¥66,800	1 月 26 日	¥78,910	3 月 15 日	¥59,350	6 月 5 日	¥61,630
2012 年 9 月	¥75,030	2 月 27 日	¥77,810	3 月 15 日	¥57,670	6 月 5 日	¥60,230
2012 年 10 月	¥74,980	3 月 26 日	¥75,430	3 月 28 日	¥56,170	6 月 5 日	¥58,700
2012 年 11 月	¥69,280	4 月 26 日	¥69,690	4 月 27 日	¥55,060	6 月 5 日	¥57,620
2012 年 12 月	¥61,470	5 月 28 日	¥61,930	5 月 30 日	¥54,510	6 月 5 日	¥57,080

6/8 現在の業者間転売価格は、…中略…

6/2 現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、5,000 円～6,000 円幅でのみ合いに突入か。激しく 2,000 円超動いたところで逆張りが、目先は取れるのではないかと見る。相場の先行き、方向性はまだ判らん。

今週の灯油の値動き

	7 月限(当限)	前日比	12 月限(先限)	前日比
6 月 4 日	¥55,880	-2890	¥58,470	-2500
6 月 5 日	¥57,330	1450	¥59,770	1300
6 月 6 日	¥57,230	-100	¥59,660	-110
6 月 7 日	¥58,160	930	¥60,900	1240
6 月 8 日	¥57,190	-970	¥59,890	-1010

最後に灯油です…先週号においては『とてもじゃないが買える相場ではない。完全に底打ちを確認してから買っても遅くないわけで、この夏場の灯油買いはまだ当分見送りであろう』とコメントした。

今週の相場展開は、57,930 円 (6/5) までの急落の後、週末には一時 62,040 円と安値から 4,000 円以上の急反騰。しかしそこからは、再び 6 万円割れで終了するなど、激しい相場展開となった。

○ 東京灯油日足

…削除済み…

高値 75,730 円 (3/15) →57,930 円 (6/5) までの下げ幅は 17,800 円と、更に下げ幅を拡大した相場は、そこから急反騰して急反落。

普通に考えれば、急反騰したのだから 57,930 円は底値。しかし急反落したのだから、62,040 円も戻り高値。つまり 58,000 円～62,000 円プラスマイナス 500 円程度の 5,000 円幅の逆張りに入る、というのが妥当な見方ではあるまいか。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012 年 7 月	¥61,750	12 月 26 日	¥74,500	3 月 15 日	¥55,500	6 月 5 日	¥57,190
2012 年 8 月	¥63,840	1 月 26 日	¥75,130	3 月 15 日	¥55,560	6 月 5 日	¥57,340
2012 年 9 月	¥73,400	2 月 27 日	¥75,730	3 月 15 日	¥55,950	6 月 5 日	¥57,780
2012 年 10 月	¥74,590	3 月 26 日	¥75,370	3 月 28 日	¥56,690	6 月 5 日	¥58,650
2012 年 11 月	¥70,800	4 月 26 日	¥71,400	4 月 27 日	¥57,420	6 月 5 日	¥59,390
2012 年 12 月	¥64,110	5 月 28 日	¥64,550	5 月 30 日	¥57,930	6 月 5 日	¥59,890

6/8 現在の業者間転売価格は、…中略…

6/2 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、目先は 58,000 円～62,000 円程度での逆張り・もみ合いに入るのではなかろうか。次のトレンドの発生は、原油価格の動向次第であろう。

[為替]

○ ドル/円相場日足

…削除済み…

77.61 円 (6/1) まで円高が進んだ後、79.79 円 (6/7) まで反発。週末は 79.22 円と若干の円高で終了であり、NY 市場では 79.34 円で終わっている。

今のところ、80 円は壁だろう。77 円も底でもおかしくないチャートだが、普通に考えれば少なくとも 2 番底を付けて、W 底を打たないと円安には行けないと見る。

○ ユーロ/円相場日足

…削除済み…

95.58 円 (6/1) まで円高/ユーロ安が進んだ後、スペイン国債の格下げで材料出尽くしとなったと見たのか、100.63 円 (6/7) と 100 円台まで円安/ユーロ高になった。

しかし週末はまた円高で、NY 市場ではまた 100 円を挟んだ動きである。

今の商品相場は、このユーロの動向での上下だ。ユーロが上がれば（円安ならば）商品も上がるし、ユーロが下がれば（円高ならば）商品も下がるわけだ。商品だけではなく株もそうである。

当方としては、まだ単なる自立反発のユーロ高だと思っているのだが、ギリシャ再選挙以降の相場に注目だろう。

○日経 225 日足（6/7 現在）

…削除済み…

為替や株の専門家ではないのだが、当然の如く「日経 225 先物・オプション取引」の経験はある。

6/7 までは戻し、週末 6/8 は 8,430 円まで反落で、シカゴでは再び 8,600 円台まで戻している。200 円の往ったり来たりだ。まだ大底という気はしないし、つまり商品もそういう事だ。

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

（当たり前ですが念のため）

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com